

一茶ゆかりの里四季の俳句会（令和元年十一月十二月分）

選者 高山俳壇 高野悠子 先生

特選天 水引草歩み合はせし五拾年 群馬県 仙田美名代

上五の「水引草」に対して「歩み合せし五十年」の措辞は実に良いいつも寄り添いお互い元気で金婚式を迎へられたことに乾杯！

特選地 借景に秋嶺を置く大茶会 群馬県 鈴木百合子

一茶館で開催されたお茶会の様子が素直に描写され上五中七の「借景に秋嶺を置く」の措辞は見事。

特選人 虫の栗拾って捨ててまた拾う 群馬県 竹刈洋子

上五の「虫の栗」に対して中七下五の「拾って捨ててまた拾う」の措辞は、読み手に強い印象を与える。

入選 立冬や浅間嶺日かな雲を置く 群馬県 篠原庄治

入選 秋の海沈む夕日の上は月 群馬県 相川芳夫

入選 聞き役の交互に変はるおてん酒 愛媛県 河本坦

入選 闇を背に命を燃やす虫の声 宮城県 福田良光

入選 カレンター余白なきこと十二月 愛知県 平野辰美

入選 恋文に火の移りたる落葉炊き 群馬県 滝沢照香

入選 朝卓の光る新米いただきます 群馬県 竹刈千恵子